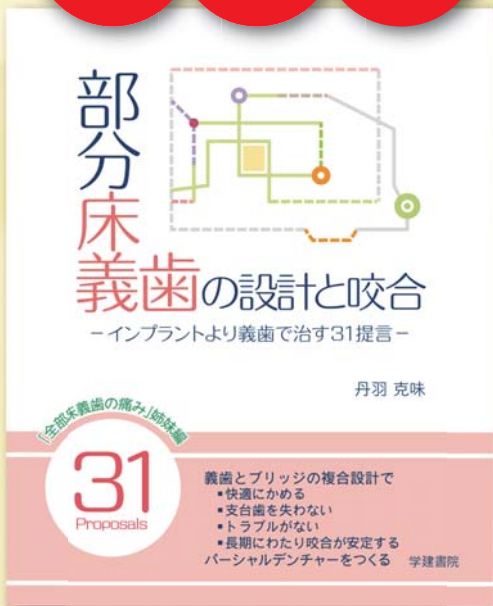


部分床義歯の設計と咬合

—インプラントより義歯で治す31提言—

最新刊



著 明海大学歯学部非常勤講師 丹羽克味

AB判 / カラー / 104頁 / 定価 5,250円 (本体 5,000円 + 税)
ISBN978-4-7624-0682-9

咀嚼機能を真に回復し、長期にわたってトラブルがなく、咬合の安定する部分床義歯。ブリッジといかに複合して設計し作製すればよいかを「31の提言」を示して明確に解説。

内容見本

提言 12 遊離端義歯の咬合は、支台歯と隣接する人工歯の1歯で成り立つ

▶567欠損義歯の咬合は、45で成立する



4-12-1

図4-12-1に示す467欠損の部分床義歯で、咀嚼時にかかる咬合圧について考えてみましょう。

人工歯の7で破砕する

図4-12-2に示すかき餅のような食品ならば、7でも破砕することはできます。しかし、図4-12-3のような餅の小骨を噛み砕くには、人工歯の7ではむずかしくなります。それは、図4-12-4に示すように、咬合面に大きな咬合力が加わると、義歯床の後端ほど大きく沈下するからです。この沈下量は数百ミクロンにすぎないかもしれませんが、

→7では、義歯床のわずかな数百ミクロンの沈下によって、小骨を噛み砕くことができなくなります。

人工歯の6で破砕する

小骨を人工歯の6で破砕するのでしょうか。図4-12-5に示すように—

→6ならば、レストの支持作用で義歯床の沈下は止められます。したがって、6で小骨を噛み砕くことができます。

→咀嚼とは、柔らかくて大きなものから硬くて小さなものまで破砕できることです。

このことから考えると、図4-12-6に示すような—

→767欠損の両側遊離端義歯では、レストが完全であれば、その支持によって咀嚼と咬合の安定は、6-4|4-6で成り立つのです。

すなわち、この義歯の支持様式は、完全に歯根膜支持となります。

これまで説明した破砕運動から、部分床義歯における咬合成立の要件が導かれます。

→遊離端義歯で、真に咀嚼と咬合安定に與与するのは、支台歯と隣接する人工歯の1歯です。

● 52 ●

インプラントにくらべ、部分床義歯のメリットは？

- ① あらゆる欠損症例に適用できる。
- ② きわめて短い日数で治療ができる。
- ③ 観血的な負荷をかけず、作製と再製ができる。
- ④ 経済的な負担が少ない。
- ⑤ 人工歯の咬合圧をレストを介して歯根膜に伝え、圧感覚を咀嚼運動に組み込むことができる。
- ⑥ 快適な咀嚼ができる。

部分床義歯に求められる要件と優先順位は？

- ① 咀嚼機能が最大限に回復されること。
 - ② 床破折や支台装置の破壊がなく、咬合が長期間にわたって安定していること。
 - ③ 審美的に優れていること。
 - ④ 邪魔にならず快適であること。
- 要件の①と②を満たす義歯設計について徹底解説。

歯の欠損状態については？

ケネディーの分類にしたがって、義歯とブリッジを、どのように複合して最善の治療法を導くかに狙いを絞って解説。